

「主をほめよ高らかに」

(歴代誌 I 29:11)

主をほめたたえよ 高らかに

主イエスを

主をほめたたえよ とこしえに

主イエスの名を

主の愛 いつまでも変わらず

全地(ぜんち)を喜びで満たす

主をほめたたえよ 高らかに

「聖なる主の御名をたたえ」

(詩篇63:3)

聖なる主の御名をたたえ

ほめ歌をささげます

ちから強いイエスの御名を

たからかに歌います

あなたの恵みは いのちにもまさるゆえ

私のくちびるは あなたを賛美します

聖なる主の御名をたたえ

ほめ歌 ささげます

新聖歌21番 「輝く日を仰ぐとき」

1 輝く日を仰ぐとき 月星(つきほし) 眺(なが)むるとき
雷(いかずち)鳴り渡るとき まことの御神を思う

* わが魂(たま) いざたたえよ 大いなる御神を
わが魂(たま) いざたたえよ 大いなる御神を

2 森にて鳥の音(ね)を聞き そびゆる山に登り
谷間の流れの声に まことの御神を思う
(*くりかえし)

3 御神は世人(よびと)を愛し ひとりの御子を降(くだ)し
世人の救いのために 十字架にかからせたり
(*くりかえし)

新聖歌21番 「輝く日を仰ぐとき」

4 天地(あめつち)造りし神は 人をも造り変えて
正しくきよき魂(たましい) 持つ身とならしめたもう

* わが魂(たま) いざたたえよ 大いなる御神を
わが魂(たま) いざたたえよ 大いなる御神を

5 間(ま)もなく主イエスは来たり われらを迎えたまわん
いかなる喜びの日ぞ いかなる栄えの日ぞ
(*くりかえし)

アーメン

使徒信条(しとしんじょう)

われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。
われはそのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。
主は聖霊によりて宿(やど)り、処女(おとめ)マリヤより生まれ、
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死にて葬られ、陰府(よみ)にくだり、
三日目に死人のうちよりよみがえり、
天に昇り、全能の父なる神の右に座(ざ)したまえり。
かしこより来たりて生ける者と死にたる者とをさばきたまわん。
われは聖霊を信ず。
聖なる公同の教会、聖徒の交わり、
罪の赦し、身体(からだ)のよみがえり、
永遠(とこしえ)のいのちを信ず。

アーメン

新聖歌436番 「未(いま)だ見ぬ地」

1 未(いま)だ見ぬ地 拓(ひら)く使命 神に受けし我ら
尽きぬ感謝 ささげまつり 信仰いただき進まん

*「暁(あかつき)に太陽 などて沈むべき」

宣(よ)べ伝えよや まったき福音 闇を破る日のごと

2 起こせ大地 降(お)ろせ種を 目には涙あれど
やがて笑(え)みを 浮かべ東(たば)を
持ちて帰りきたらん (*くりかえし)

3 果たせ使命 力限り 聖(きよ)き神の霊の
満たし受けて 行(ゆ)かば聖き
御むね果たし得(う)べし (*くりかえし) アーメン

主の祈り

天にまします われらの父よ。

ねがわくは 御名をあげさせたまえ。

御国(みくに)を来たらせたまえ。

御心(みこころ)の天になるごとく、地にもなさせたまえ。

われらの日用(にちよう)の糧(かて)を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者を、われらがゆるすごとく、

われらの罪をもゆるしたまえ。

われらをこころみにあわせず、悪より救いだしたまえ。

国(くに)と力(ちから)と栄え(さかえ)とは、

限りなく 汝(なんじ)のものなればなり。

アーメン

新聖歌63番 父 御子 御霊の

ちち みこ みたまの
おお みかみに

ときわに たえせず
みさかえあれ
みさかえあれ
アーメン